

「行革甲子園 2018」エントリーシート

【取組の内容】

1 取組事例名

宮崎バングラデシュモデルで人材確保の新展開（高度ICT技術者雇用促進補助事業）

2 取組期間

平成29年（2017年）度から継続中

3 取組概要

- (1) 高度人材を採用した企業へ、人材紹介企業へ支払った紹介手数料の一部（2分の1、上限50万円）を助成
- (2) 高度人材のインターンシップ受入れ後に採用した企業へ、インターンシップ経費の一部（2分の1、上限20万円）を助成
- (3) (1)と(2)の対象のうち、特に外国人高度人材を採用した企業へ、住居費の一部（2分の1、上限18万円/人）を助成

以上の施策展開により、人材確保が難しくなっている市内の開発系ICT企業の採用を支援するとともに、高度ICTエンジニアの集積を図る。

4 背景・目的

宮崎市では市街地を中心に開発系ICT企業の集積を進め、一定の実績を上げている。しかし昨今、全国的にエンジニアの人材不足が叫ばれており、地方都市である宮崎市においても同様の状況となっている。複数の市内企業からも、SEやプログラマーなどの高度人材が確保しにくいとの指摘がある。

そこで宮崎市では、UIJターン者や外国人などの高度ICTエンジニアの市内企業への就労を目的として支援を行うこととし、特に、バングラデシュ（以下「バ国」）政府、JICA、宮崎大学が連携して行う日本語教育カリキュラムを受講するバ国トップレベルの研修生と宮崎市内の開発系ICT企業のマッチングを産学官連携のもと推進している。

5 取組の具体的内容

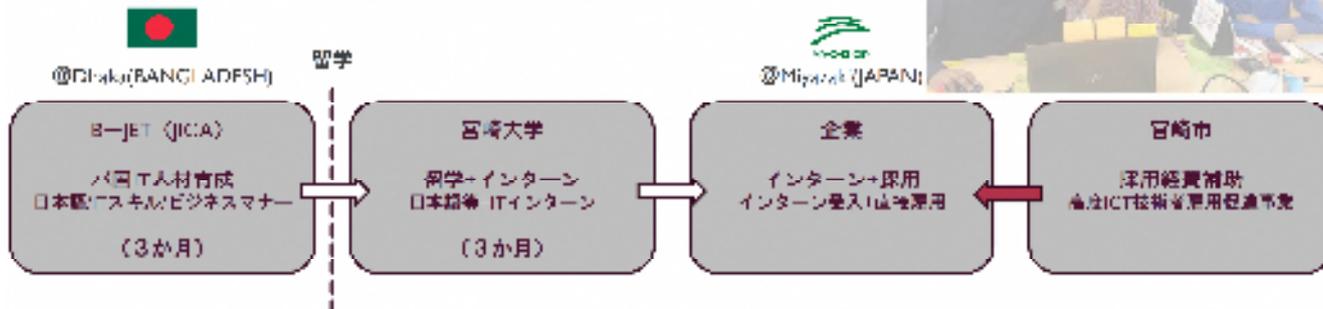
宮崎-バングラデシュモデル

- Member

JICA (BJET)・宮崎大学 (国際連携センター)・企業 (ITplus.co.)・宮崎市 (工業政策課)

- Project

バングラデシュのITエンジニアに現地 (3か月)・宮崎 (3か月) の日本語教育等を行い、宮崎の企業とマッチングする



関係者の目的とリソース

- バングラデシュ

- 目的：IT産業育成による中所得国化 (デジタルバングラデシュ) ※仕送りによる外貨獲得含む
- リソース：日本でのキャリアを求める豊富なIT人材

- 国際協力機構 (JICA)

- 目的：バングラデシュへの技術協力 (IT人材育成プロジェクト) の日本市場を数国においてIT人材育成
- リソース：バングラデシュでの日本語・ITスキル・日本向けビジネスマナー総合 (BJET)

- 宮崎大学

- 目的：留学生の国内 (地域内) 就職率向上
- リソース：外国人に対する日本語教育

- 市内企業

- 目的：エンジニアの獲得
- リソース：雇用 (就業環境)

- 宮崎市

- 目的：市内IT産業振興・IT関係企業への誘致 (エンジニア人材の獲得機位性による企業誘致)
- リソース：補助金 (高度IT技術者雇用促進事業)

国際協力

地方創生

【平成29年度】

3年間の時限事業として本事業を立ち上げた。

平成29年7月28日、宮崎大学にて、宮崎バングラデシュモデルのキックオフイベントを開催した。バ国ファティマ駐日大使が登壇し、プロジェクトへの期待を述べられた。

平成29年12月15日から同月21日、市内企業7社とともに宮崎市職員がバ国を訪問した。宮崎市のPRを行うとともに、バ国研修生と市内企業との採用マッチングを行った。

平成30年3月、高度人材を正規職員として採用した市内企業に対して、補助金を交付した。

【平成30年度】

平成30年4月、第1陣となるバ国研修生9人が来日した。現在、宮崎大学での語学研修と市内企業でのインターンシップで経験を重ねている。市内企業5社に正規職員として就職する予定である。

10月、第2陣として6人が来日する。市内企業4社に正規職員として就職する予定である。

6 特徴（独自性・新規性・工夫した点）

宮崎市は大都市と比してコミュニティが小さいため、大学、企業、行政機関がスムーズに連携することができた。顔の見える地方の特権をいかし密接な情報共有がなされ、共通の課題にチャレンジできている。

中小企業単独では難しいバ国研修生の語学教育や日常生活のサポート機能が、地域の教育機関や行政機関の支援により可能となった。

バ国トップレベルの学生を日本企業が正規職員として採用するプログラムとしては、日本初である。

7 取組の効果・費用

【事業実績】

- (1) 紹介手数料補助 5件 194万5,000円
- (2) 住宅費補助 2件 15万6,104円
- (3) 市内企業に9人のバ国研修生が正規職員として就職する（予定）。

【実際にバ国研修生を採用した企業の声】

- 「スキルが高い」
- 「真面目で勤勉」
- 「宮崎の人材（素朴でおっとり）に似ている」

8 取組を進めていく中での課題・問題点（苦労した点）

市内の多くの開発系ICT企業から人材不足の声は上がっていたとはいえ、実際にバ国研修生を正規職員として雇用するまでに至るかどうか不明確であった。

さまざまな市内企業がある中、企業が求めている人材とバ国研修生のスキルが一致するかどうか不明確であった。

文化（礼拝、ハラル食など）の違い。

9 今後の予定・構想

JICA、宮崎大学と連携しながら、バ国研修生の受入れ支援を継続する。JICAと宮崎大学は、バ国研修生の出口対策（就職先）を希望しているので、宮崎市では受入れ企業の発掘に力を入れる。

あわせて、宮崎ではバ国トップレベルのICTエンジニアをはじめとする優秀な人材が獲れるということ誘致ツールの一つとして企業誘致を推進し、雇用の創出と安定を図り、ひいては市民所得の向上をねらう。

都市圏での人材確保が今後加速的に困難になると予想される中、

立地企業がバ国研修生やUIJターン者をはじめとする高度人材を雇用する ⇒ 「宮崎では人材が獲れる」という風潮が生まれる ⇒ 開発系ICT企業の立地がさらに進む ⇒ 雇用の場がさらに創出される ⇒ 高度人材がさらに集積する ⇒ 市民所得がさらに向上する

以上の好循環をねらう。

10 他団体へのアドバイス

産学官の密接な連携（単なる補助事業ではない。イベント系のソフト事業も付随する。）。
企業ニーズの的確な把握（最後の一步が踏み出せない企業も多い。）。

11 取組について記載したホームページ

・取組について掲載しているHPがある場合には、URLを記入してください。